

小松市立宮本三郎美術館 企画展

宮本三郎 と ふるさと


—小松を描く洋画家たちの眼差し—



ふるさとは遠きにおいて思ふもの…

宮本三郎《霧の朝(柴山瀨)》1946-1947年頃、キャンバスに油彩

2023年11月23日(木・祝) — 2024年2月25日(日)

小松市立
 宮本三郎美術館

開館時間 | 9:00 ~ 17:00(入館は16:30まで)
休館日 | 月曜日(1/8、2/12を除く)、11/24、
| 年未年始(12/29-1/3)、1/9、2/13

HPはこちら



宮本三郎とふるさと

—小松を描く洋画家たちの眼差し—

「ふるさとは遠きにありて思ふもの」金沢出身の詩人 室生犀星 (1889-1962) は、ふるさとについてこのように表現しました。どこか遠くへ行ったとき、私たちは初めてふるさを想うのです。同時に、犀星のこの言葉はふるさととの「別れ」を前提としているとも考えられます。

このような犀星の詩情によりそって、宮本三郎 (1905-1974) とふるさとについて考えると、宮本の人生は多くの別れを背負っていたかもしれません。小松に生まれ、神戸、東京、京都、再び東京というように、宮本はさまざまな土地で画家としての研鑽を積みました。また、1938年にはヨーロッパを、戦時中には従軍画家として東アジアや東南アジアを遍歴しました。

1945年終戦をふるさと石川で迎えた宮本は、ふるさとをどのように感じ、表現したのか。本展覧会では、宮本のふるさとにまつわる言葉や資料を紹介しながら、宮本の作品および小松に縁のある洋画家たちの作品をご覧ください。



宮本三郎《婦女三容》
1935年、キャンバスに油彩



宮本三郎《芦ノ湖》
1962年頃、キャンバスに油彩



宮本三郎《東京タワー》
1964-1965年頃
キャンバスに油彩

小松市立宮本三郎ふるさと館 企画展・イベント

喜びを謳え!

宮本三郎の花と裸婦

2023 9.23〔土・祝〕～12.28〔木〕

Flute &
Piano
CONCERT
フルートとピアノで奏でる
ミュージアムコンサート

12/SAT
23
14:00~



宮本三郎《さらさの裸婦》
1968年頃、キャンバスに油彩

無料

事前申込不要

入館 | 無料

休館日 | 月曜日、11/24(金)



<交通のご案内>

〔宮本三郎美術館〕

- 北陸自動車道小松I.C.より車で10分
 - JR小松駅より徒歩15分、タクシー5分
 - バス「市役所前」又は「京町」下車、徒歩5分
- ※駐車場は、周辺の市営駐車場をご利用ください

〔宮本三郎ふるさと館〕

- 北陸自動車道小松I.C.より車で12分
 - 小松空港よりタクシーで10分
 - 宮本三郎美術館より車で10分
- ※駐車場は、松崎町公民館(ふるさと館前)の駐車場をご利用ください

小松市立

宮本三郎ふるさと館

小松市立宮本三郎ふるさと館

企画展 / コンサートの詳細はQRコードから!



企画展



コンサート

